

日本の心を忘れた日本人

自殺だ殺人だと完全に日本人の心が壊れています。明治の時代までは、日本人の心は世界でも類を見ない、何と美しい人種なのだろうと言われてきました。貧乏であってもお互いを助け合い、励まし合って生きてきました。ですから家に鍵をかけなくても泥棒は入らないし、安全は世界一と謳われたものです。

まだ私が小学校のころは、修学旅行に行けない生徒がいると、先生が面倒を見てくれて連れて行ってくれたものです。戦後の日本には、まだ少しは日本の心を持った年寄りがいいたものですから、やっても良い事と悪い事のケジメがあったし情というものがあったように思います。

昔が全部良かったと言っているのでは有りません。「姥捨て山」の昔話ではありませんが貧困で生活ができないことも常態であったと思います。協力しあって行かないと生きられませんから、「村八分」という制裁が有ったわけで、サラリーマン化した現在の生活形態での関川村の村八分騒動とは根本的に異なります。農耕民族のときのお盆とサラリーマンのお盆とは全く時間の過ごし方が異なります。それが現在はすっかりアメリカナイズされ、お金・お金の亡者になり下がっただけでなく、他人に良いことが有ると「妬み」、「恨み」を持って足を引っ張ってきます。

明治維新後の日本は、西洋文化に学べと邁進し、日本の文化は駄目なのだ切り捨ててきました。その結果が西洋かぶれの現在の日本の姿です。(武士道も全部捨てました)

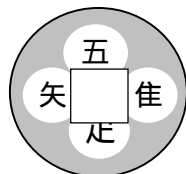
学歴最優先主義で東大を出ないと人間扱いをしない国の官僚達。地方の市役所であっても一流大学を出ていないと出世はなかなかできません。情の分からない人間に庶民の気持ちなどを分かるはずがありません。社会保険事務所の職員を見てください。労働基準監督関係の役所の職員を見てください。情を持って対応してくれていますか。

日本の心は、清々しいほどであった言われています。助け合い、励まし合い、みんなで何とか生きてきた山だけの資源の無い日本であったはずです。ですからどんな山中でも道路が有れば部落があります。人が暮らしています。でもこの頃は、余りにも物資面の貧富の差が激しくなり、その差が心の貧富の差にまでなっているように思います。

文明の進化は悪いことではありませんし、世の中がドンドン便利になって大いに結構な事だとは思いたいのです。しかしながら、これに反比例して心が貧しくなって来ているのが、悪い方向に向かっている元凶ではないでしょうか。人間も地球に住む動物の一種類でしかないはず。文明の進化という美名のもとに、すっかり人間のエゴが地球破壊の最大の原因になってしまいました。

企業再生を果たした企業を見ては、そんなことをすれば誰だって立ち直りはできると他人様は言い放つ。じゃあ自分でやったら。大勢の方達の協力が有ったのになのに、貴方に本当に協力してくれる人は何人。

京都龍安寺に銭形につくばい(手水鉢)があります。真ん中に「口」の形が彫ってあり中に手洗い水が入っています。上から「五」、右に「佳」、下に「足」、左に「矢」の文字が刻まれていて、それぞれの各部分に口を加えると「吾」、「唯」、「足」を「知」と読みます。分を知りなさいと言うことでしょう。



煩惱を捨てましょう

欲をかいても死ぬときは置いて行く

さ～てさて自分自身はどうなのか。これまた煩惱の固まりで、能力の限界に挑戦とカッコを付けてはいるがあっちにゴツン、こっちにゴツン年中頭を撲つけて反省の毎日。能力をお持ちの皆様から見れば何をやっていると言われるのが落ちです。

**人間として気持ちが「わくわく」することを
考えましょう**